

ガイドラインに要れるべき要件

デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会WG
2016年10月11日(火)

福島 幸宏(京都府立図書館)

本日の構成

- 組み立ての整理と全体構成
- スリムモデル
- ノーマルモデル
- 評価とインセンティブ

組み立ての整理と全体構成

- 課題→「ガイドラインに要れるべき要件」
 - ガイドライン全体の構成を念頭に置いて整理する必要
- 発想の前提
 - 多様な主体が様々な条件や文脈でデジタル・アーカイブを構築
 - 貴重なもの・巨費を投じながら「消滅」したデジタルアーカイブがあまりにも多い
 - **持続可能性** をキーワードに考える
 - ただし、現状から見て「高度」な要求だと対応出来ず構築をかえって阻害
 - 「これだけは」という要件と「ここまでであると嬉しい」というライン を明示
- 構成の私案
 - スリムモデル：クリアしてはじめてデジタルアーカイブ／あとはなんとかします
 - ノーマルモデル：ここまでであると嬉しい／より面白いことしましょう
 - 評価とインセンティブ：機関・事業の評価にデジタルアーカイブの構築を
 - 参考：ベストエフォート／モデルの例示

スリムモデルの要件

- 利用規約の明示
 - 「クリエイティブコモンズライセンス」か「政府標準利用規約」に則ったもの
 - 著作権と所有権についての正しい理解が前提
- 機械可読性の担保
 - 総務省の「オープンデータ戦略推進」関係ドキュメントに則る
 - メタデータ記述の書式を強調すること
- 環境に依存しないデータ移行性の担保
- アクセシビリティの確保
 - 「みんなの公共サイト運用ガイドライン」に則る

ノーマルモデルの要件

- スリムモデルを満たした上で
- メタデータ記述の精度向上
 - 画像ファイル自体への記述
 - 更新履歴の明示
- より一層のデータ流通性の確保
 - API（アプリケーションプログラミングインタフェース）の提供
 - DOI（デジタルオブジェクト識別子）の付与
- 利活用コミュニティ形成の活動
 - データソン／NDLの諸活動
 - 自由な活動を前提／レスポンスをもらえる仕組み・行動

評価とインセンティブ

- ガイドラインへの合致度で評価
 - インフラ構築の発想／利活用の評価は慎重に考慮
 - 高く評価できる事例をピックアップする仕組み
- データベース系の科研は「公開」まで？→「持続性の担保」を要件に
 - ダークアーカイブの条件付き容認
- 機関・事業の評価に「どのような「デジタルアーカイブ」を構築したか」を
 - 新たな評価軸をつくることにより機関・事業側にもメリットを
 - 主要事業としての認識促進
- インセンティブ
 - 高く評価できる事例への手当
 - デジタルアーカイブたり得ないシステムへの公的資金投入の可否

補足

- 「デジタルアーカイブ」の分解
 - 本体：メタデータと画像ファイルの集合体 + API提供
 - 表皮：多様な利用方法・見せ方を提供
 - 触手：表皮を使って本体を売り込む活動
 - プラットフォーム・ショーウィンドー・フォーラム
- ベストエフォート／モデル選択の考え方
 - 海外（アジア）事例を必ず
 - 海外の日本資料に関する活動
 - リソースがない中での構築事例